

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025 年 2 月 28 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 170-0004

所在地 東京都豊島区北大塚2-24-5 ステーションフロントタワー2F

評価機関名 株式会社 地域計画連合

認証評価機関番号 機構 02 - 002
電話番号 03-5974-2021
代表者氏名 江田 隆三

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	本蒲田保育園			
事業所連絡先	〒	144-0052		
	所在地	東京都大田区蒲田1丁目4番23号		
	TEL	03-3736-3138		
事業所代表者氏名	原 祐子			
契約日	2024 年 4 月 1 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 6 月 20 日			
利用者調査結果報告日	2024 年 9 月 2 日			
自己評価の調査票配付日	2024 年 6 月 20 日			
自己評価結果報告日	2024 年 9 月 2 日			
訪問調査日	2024 年 9 月 10 日			
評価合議日	2024 年 9 月 10 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・事前説明にあたっては、令和6年度方式の評点基準、確認根拠資料の準備について、わかりやすい独自資料を用意し、事業者の負担を軽減する工夫を行っている。 ・分析シートは記入のポイントを用意し、効果的、効率的に情報が整理できるよう工夫を行っている。 ・確認根拠資料は、訪問調査の概ね3週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ったうえで訪問調査を実施し、訪問当日は事業所の課題や良い点を把握するためのヒアリングに重点を置いて実施している。 ・合議は、訪問調査終了後、同じ日のうちに、速やかに実施している。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- ☒ 機構が定める部分を公表することに同意します。
☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2025 年 2 月 26 日

事業者代表者氏名 原 祐子 印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） （理念）一人一人のこどもの個性を大切にし、地域や保護者に寄り添い信頼される保育園を目指します。 〈運営及び保育方針〉 1)こどもが安全で安心できる環境(人・物・場所)のもと生活し、一人ひとりの発達を捉え、大切に育てます。 2)こども一人ひとりとしっかりと向き合い、成長の手助けをします。 3)こどもが、自分の力を存分に発揮できる環境を整え、生活し遊べるようにします。 4)保育の質を高め、こどもたちが様々な力を身につけられる場にします。 5)家庭と連携を図り、こども、保護者双方の支援をします。 6)大人もこどもも、気持ちよく挨拶をかわせる保育園を目指します。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） （1）職員に求めている人材像や役割 1・保育はその保育士の全人格を要求される仕事である。現状や経験に甘んじることなく感性を磨き細やかな実践と確かな理論をもって保育にあたり、自己の人間性への謙虚な反省と向上に努力する姿勢を忘れないようにして欲しい。 2・こどもや保護者、地域の方々等さまざまな方と関わりながら、職員自らが輝き愛情と誠意をもって意欲的に職務に取り組んで欲しい。 3・大田区の職員として自園のみならず近隣の保育施設や子育て家庭等、地域の子育て力向上に努めるよう、専門性をいかし広い視野を持って職務に取り組んで欲しい。 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） 1. 保育士は人間的環境ということを踏まえ、その存在そのものがこどもの発達に影響を与えるということを自覚し、常に豊かな感性と向上心をもってこどもに携わって欲しい。 2. 職員はその専門性をいかしこどもや保護者を支援するとともに、皆が連携を取り合ってこどもの最善の利益を保障するよう努めて欲しい。 3. 職員は公務員という立場を忘れずに、さまざまな方々と協力し合って地域全体でこどもを育てるという感覚を持って欲しい。

調査対象

2024年6月20日現在の施設の利用者(保護者) 103世帯(利用者総数 129名)を対象とした。

調査方法

WEBアンケート。施設にて担任が保護者に手渡しする形で案内状を配付。保護者任意のデバイスにてアンケートに回答。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

129
103
103
86
83.5

利用者調査全体のコメント

総合満足度(大変満足、満足を合計した割合)は、(97%、83人)となっている。

●各設問のうち、「はい」の比率が高かった上位は、以下の項目であった。

問1. 園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っていると思いますか
問2. 園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっていると思いますか
(各々 100%、86人)

問13. あなたは、職員がお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか
(98%、84人)

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	86	0	0	0
子ども一人ひとりの個性や性格に合わせて尊重してくれる よく見てくれると思っている。 日々友達との関わり合いで学ぶことが多いと思います。衝突があってもお互いの意見を聞いてくれていると感じます。植物の栽培や虫の飼育等経験できるのも良い所だと思います。 先生方も細かく伝えてくださるし、保育園に通い始めて、できることも増えた。 などの意見があった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	86	0	0	0
生き物や植物を育てたり、育てた物をみんなで食べたり、子供達が、とても楽しそうです。それ以外にも色々工夫して、日々を楽しんでくれていると感じます。 家庭菜園や虫の成長の観察等、とても刺激を受けているようです。楽しそうに報告してくれます。 保育園で覚えた言葉遊びや歌を、家庭で披露してくれることもあるので、関心を持って活動をできていると感じます。 などの意見があった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	78	6	2	0
栄養バランスを考えた食事で、子供も給食を楽しみにしています。 園での食事の献立表やその日のメニューも、実物をケースの中で展示してくれているので、どんなものを食べたか見てわかるようになっているし、自宅での食事の参考にもなっています。 手作りのものや自分たちで育てた野菜などを食べる時間もあり、ありがたいです。 などの意見があった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	75	10	1	0
頻繁にお散歩に連れて行っていただいている、休日に近所や公園を歩くと、その場所のエピソードなど教えてください。親が仕事している間に、子供は子供の社会での活動をしているのだと実感します。 園庭もあり、公園が近いので助かってます。 こまめに季節の行事をしてくださるので、文化や社会にふれるきっかけになっています。 などの意見があった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	71	14	1	0
スポット延長保育を申請した際に、不可能だったことはありませんでした。いつも快く対応してくれます。 柔軟に対応いただきありがたく思ってます。 通院などで変則的な預かり時間になる場合も 出来る限り柔軟に対応して頂けて助かっています。 などの意見があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	76	10	0	0
門戸のセキュリティ対策はしっかりされていると思います。 といった意見があった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	64	19	3	0
保護者会の開催時間に配慮がされている。 個人面談は希望日を聞いてくれるのでスケジュール調整がしやすいです。 運動会などは土曜、保護者会は午後か夕方など配慮していただいている。 などの意見があった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	76	7	3	0
お迎えのたびに子供のエピソード伝えてくれます。全ての親御さんにそうしているので本当にすごいです。心配なことも相談すると真摯に聞いてくださいます。 気軽に話してくださるのでこちらも話しやすいです。 どの先生も気軽に相談にのってくださるので大変助かっています。 などの意見があった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	75	8	3	0
建物は古いですが、お掃除や整理整頓はちゃんとされている印象。 きちんと掃除がされているように感じます。 いつもゴミひとつ落ちてないです。トイレや手洗い場も清潔で使いやすいです。 などの意見があった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	76	8	2	0
園外ですれ違ったりしても、丁寧にご挨拶して下さいます。 優しく丁寧な先生ばかりで助かっています。 いつも丁寧に話しかけていただいています。先生方のかわいいエプロンには目が癒されます。 などの意見があった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	83	3	0	0
小さな擦り傷でもきちんと報告してくれます。 怪我をした時、病院の手配、引率等をしていただきました。とても安心することができました。 速やかに連絡を頂けて、必要時は受診してもらえて安心しています。 子供が怪我したときは適切に判断して、お世話してくれました。丁寧に説明していただき、事後処理もよく確認してやっていただきました。 などの意見があった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	71	14	1	0
些細なことも報告してくれます。 報告していただき、アドバイスや、その後の経過も見守っていただいている。 などの意見があった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	84	1	1	0
きちんと対応してくれていると思います。 喧嘩や泣いた時、きちんと話を聞いてくれます。担任の先生の名前を言って大好きと話してくれるため安心しています。 子どもの性格や好き嫌いを把握して対応してくれていると感じます。 などの意見があった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	78	8	0	0
あまり気にした事はありませんでしたが、特に口外するという印象はありません。 といった意見があった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	77	7	1	1
専門用語が分からないと伝えたと、以後説明や図などを記載頂き分かるように対応してくださった。 わからない場合は質問するし、きちんと答えてくれます。質問しやすい環境です。 毎日丁寧に報告してくれていると感じます。 などの意見があった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	72	14	0	0
園長も含め対応は早い。 翌日には共有して頂いていて他の職員の方ともスムーズにやりとりができています。 まだこれといって不満を伝えた事がないので現時点ではよくわかりませんが、話を聞いてくれそうな雰囲気は感じます。 などの意見があった。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	56	21	9	0
そのような相談をしたことがありません。 そういう機会がまだないです。 説明もありましたし、掲示もあるので分かります。 などの意見があった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	7/7
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている		○非該当
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している		○非該当
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している			
評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている		○非該当
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している		○非該当
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている		○非該当
	カテゴリ1の講評		
園の目指す姿や重要資料は園マニュアルとしてファイルに集約し職員全員に配付している 園は理念や基本方針、保育目標を玄関に良く見えるように掲示し、また理念や方針に加えて園目標、重要事項説明書、全体的な計画、中長期計画の他様々な場所で管理している園内の重要な資料を本蒲田保育園マニュアルとして一冊のファイルに集約し、ナンバー管理のもと職員一人ひとりに渡し年度初めには職員全員で読み合わせをして理解を深めている。保護者へは入園時のオリエンテーションで重要事項説明書を用いた説明や、保護者会でパワーポイントでの説明、また各クラスの掲示板には保育目標と今月のクラス目標が掲示され理解が深まるようにしている。 園長は園の課題解決に向け5つのプロジェクトチームを体制化し園運営をリードしている 年度当初に職務分掌を確認し、各役割の確認や組織の一員として立場や仕事分担(園内は24個の係に対して職員全員で担っている)を明確にしている。さらに職員は保育の専門職業団として、理念に基づき、ねらいをもって保育をしている事を打ち合わせの時や、職員会議で常に伝えている。施設長は今年度5つのプロジェクトチーム(PT)(防災、危機管理、園内研修、地域支援、環境)の体制を作り、職員全員が各PTに所属して園内で発生する課題の解決に向けた活動している。5月迄には年間計画を策定して承認の下活性化させて園運営をリードしている。 園の重要な案件の決定手順は職員全員が確認の上決定しプリントの配付で周知している 園の重要な意思決定は、各打ち合わせや会議で検討し職員会議で参加者全員が確認の上決定する手順である。緊急の場合は適時リーダー会議(園長含む7名参加)を開催し決定している。決定事項はリーダーがクラスに持ち帰り報告し、実施してみて問題点等があった場合は再度リーダー会に持ち寄って検討し、全体の職員会議で最終決定している。遅番担当などで職員会議に参加できない場合は議事録を見て確認する事や、チェック表を用いた回覧も行っているが、基本的に決定事項は漏れがないようにプリントしたものを配付する事で確実に伝える様にしている。			

	カテゴリー2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
	サブカテゴリー1(2-1)		
	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6／6
	評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評点(○○○○○○)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
	●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
	●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
	●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
	●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
	サブカテゴリー2(2-2)		
	実践的な計画策定に取り組んでいる	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5／5
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評点(○○○)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
	●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
	●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
	評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評点(○○)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
	●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
	カテゴリー2の講評		
	職員の意向は職員面談シートで面談時に把握や日常の中でも常に良い提案を聞いている 職員の意向や意見は、区の保育サービス課共通の良い仕組みである一般職員面談シートを上手に活用し、年間で3回の面談時に課題を踏まえた具体的な計画とともに意見や要望の記入内容も確認して話し合っている。また毎日の保育や行事の開催等には職員の意向を取り入れて各打ち合わせで検討する事や、今年度の5つのプロジェクトチームとは、それぞれのテーマで課題を抽出し意見を出し合って改善している。普段から職員とコミュニケーションをとり、状況把握をしたり意見を聞いたりして、園長と副園長が連携しながら検討の場を設けるようにしている。 地域保育施設会議に参加して交流や情報交換、意見交換で子育てニーズを把握している 地域の情報やニーズは地域の保育施設との交流活動として区の担当者が主催している、蒲田東地域保育施設会議(地域の公立園、私立園、小規模園、認証園他各保育所23園参加)に園長、副園長と参加して交流や情報交換の中でニーズを共有している。6月開催時にはグループワークにおいて「職員育成で心がけていること」の意見交換をし、11月には子育て支援について意見交換の予定をしている。また福祉に関する情報は新聞や広報誌、冊子、ホームページ等で収集し朝礼や職員会議等で動向を周知し、新聞の切り抜きや冊子は回覧用にファイルに綴じている。 園の中長期計画は保育計画、危機管理他5項目で今年度以降の実施項目を明確にしている 園の中長期計画は、昨年度の課題を踏まえ、保育計画、危機管理、施設整備、備品、地域の核として、5項目に関して昨年度の実施事項から今年度の実施項目、1～3年後、5年後までの実施項目を明確にしている。今年度の重点では、特にプロジェクトチーム活動の充実や地域向けの公開防災訓練をテーマとして、更に地域の核としては公開保育と地域の家庭支援に力を入れている。定期的な人事異動も踏まえ園長が代わっても、やるべき項目が変わらないように誰でも分かる内容として、職員全員にも説明し本蒲田保育園マニュアルにもファイルしている。		

カテゴリー3		
3	経営における社会的責任	
サブカテゴリー1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリー2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリー3の講評		
年度初めに園のマニュアルで守るべき法やこどもの人権について読み合わせをしている 年度初めには、園で定めた本蒲田保育園マニュアルの中で個人情報や守秘義務、こどもの人権について職員会議で読み合わせを行い、必要において随時朝礼で確認している。また児童憲章と全国保育士会倫理綱領もマニュアルにファイルしておりいつでも見られるようにして理解が深まるようにしている。なお、関係する研修に参加した職員は研修報告で還元するようにしている。個人情報については毎年、年度初めにプライバシーポリシーを職員全員が確認してサインをしている。会計年度任用職員にも同じマニュアルを渡していつでも確認できるようにしている。 苦情解決制度に基づき対応窓口やオンブズマン制度のポスターを掲示して明確にしている 苦情解決制度に基づき玄関に苦情受付窓口や第三者委員の窓口、区のオンブズマン制度のポスターを掲示している。苦情や意見が入った場合は直ぐに対応して解決し、内容により個人に関わる事が園全体の事を判断して速やかに園内でも改善に向けている。第三者委員は区で任命しており、毎年区から苦情の有無などについて報告する仕組みがあるが、園としては園長、副園長とも面識をもていない。園の苦情解決対応の仕組みとして、第三者委員を担ってもらっており、園を良く知ってもらえるような方法を区の保育サービス課と相談する事を進められたい。 園は透明性を高め地域の子育て支援の来園や実習生、ボランティアも多く受け入れている 地域の子育て支援として毎月「ぽかぽか広場」を実施しており、昨年は併設する児童館と内容の重複が多く参加者が少なかったが、再度保育園として出来る事の企画に変えてリピーターが増えてきている。園見学を含めて来園時には在園児の保護者に向けた壁新聞や園の目指す姿、各クラスの目標他全てが公開され透明性を高めている。また実習生やボランティアの保育体験や職業体験等、直接や区を通して毎年申し込みがあり受け入れ体制を整えている。区の事業である育児応援券とマイ保育園登録の利用も多くなり、園の地域支援企画との棲み分けも考えている。		

4 リスクマネジメント サブカテゴリ1(4-1) リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5 / 5		
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評価 標準項目		
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○ 非該当
サブカテゴリ2(4-2) 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4 / 4		
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評価 標準項目		
● あり ○ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○ 非該当
カテゴリ4の講評 園は防災プロジェクトチーム(PT)や危機管理PTを中心にリスク対策を強化している 園の立地条件や周辺環境からリスクを不審者侵入と捉え、不審者対応訓練や入口のオートロックなど対策を強化している。また防災プロジェクトチーム(PT)や危機管理PTを中心に地震や火事、事故の未然防止など訓練やマニュアルの読み合わせ等を常実施し職員全員の意識を高めている。安全計画を作成し職員全員と共有して計画に基づき実施しており保護者会でも説明している。なお、園だよりで交通安全教室や防災対策なども案内して園の取り組みを丁寧に案内しているので、安全計画も掲示して保護者にいつでも確認できるようにする事も検討されたい。 ヒヤリハット管理は職員全員が気づきを表せられる簡便な記録方式の検討を進められたい 園は事故の未然防止対策としてヒヤリハット管理を行っているが、ヒヤリハット件数よりも怪我報告書の件数が多く、怪我に関しては来年も同時期に起きてしまう可能性があるヒヤリハットとして傾向を分析し再発防止に向けている。ヒヤリハットの件数はあまり出てこないことから、昨年度は副園長がヒヤリと思う事を指摘して記載を委ねて出てくるようになっていく。ヒヤリハットの本来の姿として、職員全員がそれぞれの立場で見てヒヤリと思った気づきを自覚する事と考え、簡便な方法、例えば付箋で書き出す等の方法も検討を進められたい。 園内の情報の取り扱いは詳細にルール化して運用しており情報管理は適切に行われている 園の情報管理は詳細なルール化により適切に守られている。紙情報や電子媒体は全て鍵付きの書庫内に保管する事や、持ち出し時にはタブレット端末使用管理簿他全ての持ち出しの管理簿に記入する事を運用している。また個人情報に関する書類を事務所から持ち出す際には個人情報文書利用管理簿に必要事項を記入してから持ち出しし、使用後に冊数を確認してから書庫にしまう様にルール化している。PCに入力している名簿や写真などは、使用後に削除しており、PCタブレットは顔認証とパスワードを入力する事で情報漏えい防止の対策を取っている。		

5			カテゴリー5	
職員と組織の能力向上				
サブカテゴリー1(5-1)				
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	12／12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している ○ 非該当 ●あり ○なし 2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる ○ 非該当				
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている ○ 非該当 ●あり ○なし 2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している ○ 非該当				
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している ○ 非該当 ●あり ○なし 2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している ○ 非該当 ●あり ○なし 3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している ○ 非該当 ●あり ○なし 4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている ○ 非該当				
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている ○ 非該当 ●あり ○なし 2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる ○ 非該当 ●あり ○なし 3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる ○ 非該当 ●あり ○なし 4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている ○ 非該当				

サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
		3 / 3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリー5の講評		
園長の人材育成の想いは職員が保育の楽しさや魅力を感じるために基本を大事にしている 園長の人材育成に向けた考え方は、職員に保育の楽しさや保育の魅力を感じてもらい、保護者との信頼関係構築や地域との関わりなど、基礎となる部分を身に付けて持続可能な仕事となるようにしたいと考えている。区の保育園人材育成指針には具体的な考え方が記載され、求められる職員像、求められる基本姿勢、求められる能力が明示され、職員育成計画は在籍年数と職制に対して園内の役割、求められる資質及び研修項目が明確なキャリアパスとなり年度初めに説明している。個別職員面談でもキャリアデザインを記入してもらい個人の研修計画を確認している。 園は園内研修プロジェクトの公開保育を含む園内研修や区や外部研修等豊富な機会がある 園内研修は園内研修プロジェクトチームが企画して、年間6回の園内研修企画と共に公開保育の実施も大きな学びの機会として実施している。特別支援研修、幼児教育センター合同研修、区の保育サービス課主催研修には22項目に参加者を決めて計画しておりオンライン研修も含めとても豊富な研修機会がある。一般職員面談シートでも希望する研修、研修計画(自己啓発)の記入欄があり実現できるように検討している。また会計年度任用職員もOJT研修(心肺蘇生法や人権について他)は共に受講しており、勤務形態が違っても学びの場を多く作っている。 スマートワークを意識した仕事の取り組みに向けICT化や協力体制で改善を進めている 園は安心して働き続けられる職場に向けて、スマートワークについて個別面談や職員会議の場で確認を行い一人ひとりが意識して仕事に取り組めるようにしている。なるべく時間外勤務にならないように、事務処理は時間内に回せるように協力体制を取り仕事の分担が出来るようにしている。昨年よりICTの活用で、月案もPCで作成となり過去の継続データも確認できる事で業務の省力化に繋がり、以前実施していた「すくすくプラン」3回保護者と面談の見直しや、保護者会用の資料作成にパワーポイントの作り方の勉強等、色々な事を踏まえ改善が進んでいる。		

7		カテゴリー7
事業所の重要課題に対する組織的な活動		
サブカテゴリー1(7-1)		
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている		
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)		
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)		
安心して信頼できる園を目指し職員一人ひとりが資質や接遇力の向上に努め、専門職として高い意識を持って保育を実践するために、こどもの人権を尊重しこども一人ひとりの最善の利益を念頭に置いた保育が必要と考え、目標を「こどもの人権について理解を深め、保育の共通理解を図る」と定めて次の取り組みを行った。 ①毎月職員会議の中で15分間こどもの人権について事例を用いて話し合う ②保育士が日々直面する事例をあげ、こどもの人権について考えて行く ③こどもの思いや保育士の思い、行動の背景を考えてグループワークで対応の方向性を検討する ④園内公開保育を通してお互いの保育を見合い、気になる事や検討事項がある場合は話し合って改善していく 取り組みの結果、事例をもとにクラス毎に話し合うことで実際の保育をイメージしながら共通理解ができ、話を纏めたものは冊子にした。園内公開保育では、こども一人ひとりに丁寧な言葉がけも沢山あったが、もう少し配慮が必要な部分も見られ、こどもの人権を踏まえて保育を考えるきっかけとなった。 今後もこどもの人権について理解を深め職員一人ひとりが資の向上に努め、専門職として高い意識を持って保育実践ができるようにしていく。		
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった	
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評		
園の理念や基本方針の実現を図る上での重要課題として、職員一人ひとりが資質や接遇力の向上に努め、専門職として高い意識を持って保育を実践するために、こどもの人権について理解を深めて、保育の共通理解を図る事が重要として取り組みを始めている。 こどもの人権を話し合うために、まず毎月職員会議の15分間を保育士が日々直面する事例を挙げて、こどもの人権について考えて話し合っていき、こどもの思いや保育士の思い、行動の背景を考えてどのように対応したらよいかをグループワークで検討している。さらに公開保育を通してお互いの保育を見合い、気になる事は話し合って改善する事を実施している。 この活動は、事例をもとにグループワークとして話し合う事で、実際の保育をイメージしながら共通理解が持てた事は大きな成果と言える。さらに、成果物として話し合いの結果をシートに記入して冊子を作っている。また、公開保育は具体的に良い部分、もう少し配慮した方が良い部分が分かった事も大きな成果と思われる。 今後もこどもの人権について理解を深め、誰もが安心して信頼できる園を目指していくとしてPDCAをよく回している。		

評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 以前から地域の子育て家庭より保育園に来園する機会があると良いというニーズを把握しており、子育て支援プロジェクトチーム(PT)を中心に保育園を利用してもらえるように工夫し、目標を「地域保育施設の核として地域性やニーズを適切に受け止め、専門性を活かして多様な子育て世帯への支援に取り組む」と定めて次の取り組みを始めた。 ①子育て支援PTと地域連携担当で保護者のニーズに合わせた年間計画を立て、栄養士の離乳食講習会や看護師の健康に関する講話を企画 ②見学会や育児応援券を利用した保護者に、ぽかぽか広場を紹介し冊子を配布 ③参加保護者のアンケート内容を変更して、よりニーズを把握しやすくした ④予約制の期間を長めに設定した 取り組みの結果、コロナ禍で保育園に招く事を中断していた影響もあったのか、栄養士の離乳食講習会や看護師の講話の参加者がなく、全体的にも参加が少ない結果となった。また、「木のおもちゃで遊ぶ会」では、2歳児未満の利用者のニーズに合っておらず手遊びの紹介に変更する等反省が残った。 今後は前年度のアンケート内容を基に、見合った遊びの提供や会の企画等、より地域の子育て家庭のニーズに沿った支援になるように努めていく。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 以前より子育て広場を実施したいと考えている中コロナ禍以降は中断していたが、保育園に来園する機会があると良いというニーズを把握していたことから、子育て支援プロジェクト(PT)を中心に来園してもらう事に繋げるよう、専門性を活かして多様な子育て世帯への支援に取り組んでいく事を目標として活動を始めている。 子育て支援PTのリーダーを中心に年間計画を立て栄養士の離乳食講習会や看護師の健康に関する講話を企画し、また見学会や育児応援券を利用した保護者に、ぽかぽか広場を紹介し冊子を配布している。さらに参加保護者に実施するアンケート内容を変更してニーズを把握しやすくする事等を実施している。 その結果、コロナ禍で保育園に招く事を中断していた影響もあったのか、企画していた栄養士の離乳食講習会や看護師の講話には参加者がなく、全体的にも参加者が少ない結果となっている。また参加者へのニーズにも合致していない事等課題や反省が残っている。しかし反省は次へのステップに繋げ、前年度のアンケート内容を分析して、来園児に見合った遊びの提供や興味を引く企画としていく事で、より家庭のニーズに沿った支援になるように努めていくとしてPDCAを回している。	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4／4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
評価		標準項目	
◎あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		○ 非該当
◎あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている		○ 非該当
◎あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		○ 非該当
◎あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		○ 非該当
サブカテゴリー1の講評			
保護者が利用希望する園の知りたい情報は、区や園のホームページに載せている 本園のホームページには園舎風景の写真を載せ、所在地、連絡先、施設の概要として保育目標や行事など、園周辺の様子、その他の特色(児童館、高齢者いこいの家との合同施設)を載せている。区内の保育園情報や所在地は区ホームページ「保育所の入所手続きについて」で得ることができる。園舎の外側にある掲示板を活用して、区の在宅子育て支援のための「マイ保育園登録、育児応援券の活用の仕方」、地域子育て支援の「ぽかぽか広場」の開催日程を掲示している。利用希望の保護者が安心して子どもを預ける施設として知りたい情報を提供している。 地域に根差す保育園として関連のある諸会議に出席し、情報提供をしている 区からの通達などは職員間で共有し、保護者向けのお知らせなどは掲示している。園は定員の空き状況や見学会の日程等の情報はホームページで公開している。区内の地域保育施設会議、区立保育園長保育担当係長連絡会、地区別園長会では情報交換や課題を話し合い、地域に根差す保育園として幼保小連携合同研修会に参加している。実施期間を設け、近隣園対象の園外公開保育開催は各園の状況、取り組みなど、情報交換の機会と捉えている。子ども家庭支援センターや嘱託医と連携し、情報を共有してこどもの成長を見守っている。 園は見学日を決めて設定日に合わせて受付、プレゼン用ソフトを活用して説明をしている 問い合わせには丁寧に対応し、園は見学日を決めており、見学希望者からの電話を受け、設定日に合わせて受付ている。見学受付簿に記載するとともに育児応援券の利用も説明している。見学設定日以外の希望者には園の状況に合わせ、随時受け付けている。見学対応人数は10名程度で、園舎内の案内は園内の子育て支援担当保育士が見学会資料(保育園見学のしおり等)の説明やプレゼン用ソフトを利用して具体的に説明している。必要に応じ、園長、看護師、栄養士も対応している。マイ保育園登録の情報提供やぽかぽか広場の利用も促している。			

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6 / 6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)			
評価		標準項目	
☒ あり ☐ なし		1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし		2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし		3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)			
評価		標準項目	
☒ あり ☐ なし		1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし		2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし		3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	☐ 非該当
サブカテゴリー2の講評			
重要事項説明書や園目標を説明し、保護者は説明内容を納得し同意をしている サービス開始の保護者リストが区担当課より園に送られ、園は対象保護者へ、入園に関する必要な調査票と重要事項説明書を渡し、保護者がオリエンテーション前に確認でき、また、就労に配慮して土曜日にオリエンテーションを設定している。園長は重要事項説明書や園目標を説明し、保育士は新しく始まる園生活に関する確認事項や基本的なルール、1日の流れなどを説明している。調査票内容により看護師、栄養士がそれぞれ面接を行い、園は保護者の意向を確認し、保護者は説明内容を納得し同意をしている。面談内容は新入園児報告書に記載している。 保育に必要な個別情報は入園時に提出する書類一式で把握し、職員間で共有している こどもの保育に必要な個別情報は入園時に提出する児童票、児童調査票等で把握し、成長する子どもの個人目標を保護者と確認している。保育に必要な情報は新入園児報告書に記載し、職員会議で、こども一人ひとりの成育歴、健康面、食事や睡眠、心身の様子などの情報を共有し、安心安全な保育につなげている。保育開始時は初めての集団、新しい環境で過ごす、こどもの不安な気持ちを受け止め、保護者の意向も取り入れ、園に徐々に慣れる期間を設け、こどもと保護者の気持ちを和らげる対応をしている。職員のシフト調整を行う等進級児への配慮をしている。 退園や転園について職員は共通理解し、安心して次の生活になじめるよう配慮をしている 途中退園や転園についての情報は朝礼や職員会議で周知し共通理解のもと、保護者対応に努めている。退園・転園するこどもや保護者も少なからず不安があることを考慮し、安心して次の生活になじめるよう配慮をしている。区内の公立保育園に転園の場合は「転園に際する区立保育園間個人情報の受け渡しの承諾」を保護者が提出し、同意を得る対応をしている。退園の時は最後の登園日に担任や各保育士に挨拶回りを行っている。在園中に制作した作品とメッセージカードを渡し、子育てを応援する思いはつながっていることを伝え、気持ちよく送り出している。			

サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 13／13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	☐ 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している	☐ 非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	☐ 非該当

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○ 非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○ 非該当
サブカテゴリー3の講評		
発育・発達状況は保育日誌や発達記録表等に記録し、こどもの成長を見守っている こどもの発育・発達状況やこどもを取り巻く生活環境等については入園時に保護者が記入し提出する所定の書類で把握し、児童票、発達記録表に記録している。日常の園生活については、こどもの育ちを捉え保育日誌に記録し、家庭での過ごし方等の生活状況は送迎時の対話、保護者会等で把握している。個人面談や保護者会、保育参観を行い家庭の子育て方針、園への要望等を把握してアセスメントを行い、課題の明確化を図り、一人ひとりにふさわしい生活の場となるよう努めている。毎月の指導計画で振り返り、保育記録を児童票や個別計画に活かしている。 保育の内容に関する全体的な計画を年度初めに職員間で見直し、掲示板に掲示している こどもの成長を促す過程の「保育の内容に関する全体的な計画」は園の保育理念を基に、保育方針、保育目標、こどもの保育目標(0歳児～5歳児)等を定め、心の安定を図る養護、乳児の三つの視点、満1歳～3歳未満児と3～5歳児の発達を促す五領域等、包括的な保育計画は年度初めに職員間で見直し、作成している。全体的な計画をもとに、年・月・週案の指導計画(0歳～2歳児と配慮を要する子どもは個別に、3歳～5歳児は年齢別)を作成している。発達過程を踏まえ、計画的に取り組む保育内容をクラス掲示板に掲示し保護者と共有している。 月指導計画等は反省と評価の記録を職員会議で共有し、園内公開保育等に活用している こどもの発達過程は定期的に児童票に記載し、日々の生活の様子や具体的な活動についてはこどもの育ちを捉え、保育日誌、個別日誌等に記載している。個別や年齢別の月指導計画、週案・保育日誌は反省と評価を記載して職員会議で共有し、指導計画立案時やお互いに保育内容の取り組み方を学ぶ園内公開保育、クラス打ち合わせ等の機会を設け活用している。保護者、こどもの状況はクラス別遅早連絡ノート、朝礼ノート等で情報共有が図られている。定期的に行う職員会議で事務連絡事項、各クラスこどもの現状報告、行事取り組み確認事項等を共有している。		

	サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5／5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)			
評価		標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)			
評価		標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○非該当
サブカテゴリー5の講評			
こどものプライバシー保護は入園時「個人情報の利用の目的について」の同意を得ている 保育業務の基本として個人情報保護法及び関連法令に基づき、保護に努め、個人情報の取り扱いは重要事項の説明時に「区立保育園プライバシーポリシー」を保護者に説明している。外部の公的機関とのやりとりでも、虐待等に関する関係機関等への照会・通告をする場合を除き、必ず保護者の同意を得よう全職員は周知している。保育園の様子を伝えるビデオ撮影、園だより、クラスだよりへ写真掲載や園内写真掲示は、入園時に保護者の意向を確認し「個人情報の利用の目的について」の同意を得ている。また、その都度掲載について確認同意を得ている。 こどもの発達のプロセスや個性、自尊心を大切に職員全員が共通認識を持ち対応している プライバシーについては日常の保育を通してプライベートゾーンが育まれる環境を整えている。衣服の着脱やトイレの使い方等は、こどもの発達のプロセスや個性、自尊心を大切に職員全員が共通認識を持ち対応している。衣服の着脱は裸にならない着脱方法を教え、プール活動中は外部視線に留意し、こども用トイレは木製の衝立で、ささやかに羞恥心を育むプライバシーの空間となっている。おむつ替えは周囲の視線に配慮し場所を決め行っている。虐待防止については研修会で得た知識や必要な情報を職員会議等で共有し、対応マニュアルで随時確認している。 その子らしさを大切に、こどもの心に寄り添い、保護者と共に育てる支援をしている 保育理念や保育方針に従い、日々の様々な場面を捉え、こどもの伸びる可能性を大切に、思いやりや友だちと一緒に楽しく遊び、日常保育の中でその子らしさを大切に一人ひとりの主体的な活動を見守る援助をしている。こどもの権利やこどもに最善の利益となるよう、こどもの心に寄り添い、また、保護者の子育ての自信や意欲が高まる対応をしている。こどもと保護者の培われた価値観や生活習慣は生活環境全体を把握するとともに、家庭での生活と園での生活が連続するよう配慮をし、共に育てる支援を行い、必要に応じて関係機関と連携する仕組みがある。			

		サブカテゴリー6	
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5／5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)			
評価		標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)			
評価		標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		○非該当
サブカテゴリー6の講評			
園独自の「保育園マニュアル」を作成し、必要に応じ確認、活用しやすい内容にしている 区立園の業務標準化を図る「区立保育園ガイドラインマニュアル、各種手引き・マニュアル」に従い、基本的なサービス項目の水準を明確にし、保育業務の標準化に取り組んでいる。さらに、提供するサービスの内容を園として活用しやすく、まとめた園独自の「保育園マニュアル」を作成し、必要に応じていつでも見て確認できる内容にしている。また業務が円滑になるよう行事、保護者会関係、保育に関するプロジェクトチーム(5つ)、それぞれをファイリングし、事務所に整備している。本蒲田保育園のマニュアルは全職員が携帯し、日常的に活用している。 各種マニュアルは見直す時期を決め、5つのプロジェクトチームが中心に取り組んでいる 保育、安全、服務等についての確認事項は年度初めの職員会議で読み合わせを行い、確認することで、周知を図っている。各マニュアルは年度初めに各クラスで読み合わせ、見直しはプロジェクトチーム(園内研修、防災、危機管理、地域支援、環境)が中心になり、それぞれマニュアルの改訂が必要とされる事項を確認し、その時々や社会や環境変化に対応するよう年度末に振り返りを行い、次年度に活かせるよう取り組んでいる。保護者会、保育参観・参加、個人面談で得られた意見や要望を受け、行事の日程等に反映している。 プロジェクトチームが主となり保育実践のスキルアップや保育の質の向上を目指している 園長は区や関係機関からの通達、地域や他園の情報は職員会議等を通じて職員間の周知・共有に努めている。区防災の手引き等のマニュアルをもとに危機管理の見直しと改定を行い、職員全員で再確認をしている。各種業務のマニュアルは保育に反映するよう、その都度検討している。色々な考え方、やり方、関わり方があるので保育業務に迷った際にはマニュアルの確認や指導を受け、保育業務を円滑に進めている。保育実践のスキルアップや保育を通して学び合う園内研修、各プロジェクトチームの活発な取り組みは保育の質の向上を図っている。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4																						
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	36／36																					
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>6.【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		◎あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○ 非該当	◎あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している	○ 非該当	◎あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○ 非該当	◎あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○ 非該当	◎あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○ 非該当	◎あり ○なし	6.【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○ 非該当		
評価	標準項目																							
◎あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○ 非該当																						
◎あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している	○ 非該当																						
◎あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○ 非該当																						
◎あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○ 非該当																						
◎あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○ 非該当																						
◎あり ○なし	6.【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○ 非該当																						
	評価項目1の講評																							
	日々の連絡帳、個人面談等で発達や家庭状況を把握し、遊びを深める環境を整えている 一人ひとりのこどもを取り巻く生活環境や発達過程は入園時に提出する書類一式や日々の連絡帳、個人面談等で発育・発達、家庭状況を把握し、全体的な姿を捉え個々の発達に応じた保育を行なっている。こどもの保育目標に応じた年齢別指導計画のもと、様々な遊びや経験を通し、友だちとの関わりや会話を楽しむ援助や配慮をしている。室内の玩具や絵本等はこども目線にあり、積み木、ままごと、絵本等は自ら選択でき、木製で同じサイズの積み木を色々な形に積み立てる遊びができる場所を提供する等、働きかけの工夫で更に遊びを深める環境を整えている。 保育士と信頼関係を築き安定した環境を整え、個々の発達を大切にする保育に努めている 年齢別のクラス編成(0歳児～5歳児)を行い、0歳児室は食事、遊び、睡眠が充実し、月齢に応じ、落ち着いて過ごせる配慮をし、乳児クラスはグループ保育で担当保育士と信頼関係を築き安定した環境を整えている。幼児クラスは年齢別と異年齢保育を行い、自分と異なる年齢の存在を知り、様々な遊びや経験を通して友達を認識し、関わりや会話を楽しみ、仲よく遊べるよう個々の発達を見守る保育に努めている。特別な配慮が必要なこどもについては、こどもの主体性を援助しながら周囲と関わる同年齢クラスでの保育を行い、個別指導計画を作成している。 意図をもって環境作りの工夫や、こども同士のトラブルは共に育ち合える対応をしている 環境プロジェクトチームが中心に園庭を活用して人・物との出会い、体を使い多様な経験やイメージを広げて遊べる配慮している。冬の氷づくり、アゲハ蝶の幼虫が飛び立つまでの観察等、こども達が働きかけやすい環境作りの工夫をしている。多様な経験や自我の発達に伴い、言葉で表現する力の発達段階にあるこども同士のトラブル、かみつきは場面に応じ、共に育ち合える言葉掛けをし保育士の立ち位置や保育の流れなどを振り返り、保護者に状況を伝えている。5歳児の就学に向けては午睡なしの生活や散歩を通して小学校の場所を確認している。																							

2	評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている 評点(〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	☐ 非該当
	評価項目2の講評		
	こどもの生活にふさわしい生活リズムが継続するよう保護者と連携している 登園時は「おはよう」の挨拶を交わし、こどもの体調の様子を聞き取り、乳児クラスは連絡帳、幼児クラスは健康チェックカードを確認し、クラス別遅早連絡ノートに記録している。看護師は健康観察を行い、こどもの心をしっかり受け止め、こどもの生活にふさわしい生活リズムが継続する配慮をしている。降園時は日中の活動等の様子や友達同士が関わり合い、成長した姿等エピソードを交えて乳児連絡帳に記載し、必要に応じてこどもの様子を口頭でも伝え、保護者の安心につなげている。幼児クラスは幼児掲示日誌の名称で活動の様子の日誌を掲示している。 生活の流れを見通し、必要な習慣は積み重ねが習慣となるよう家庭と連携している 年齢に応じた食事、排せつ、睡眠、衣類の着脱、身の回りを清潔にする等、生活に必要な習慣は積み重ねが習慣となるよう家庭と連携し、一人ひとりのこどもの発達に合わせ、計画的に取り組んでいる。1日の生活の流れを見通し、外遊びからお部屋に入る時、給食やおやつの時など、食べ物を手にする前に保育士と一緒に保育士から促されて手洗ができるよう援助をしている。おむつ替えや自ら排せつができたすっきり感、衣服の着脱でのさっぱり感は生活や遊びの場面の中で、こどもの意欲が芽生えている姿を捉え、達成感が得られる援助をしている。 こどもの一日の生活を見通し、適度な休息の大切さを伝え健やかに過ごす配慮をしている 午睡や休息は毎日の活動が楽しく、健やかに過ごせるよう保護者と協力し、こどもの一日の生活を見通し、年齢や個人差に配慮している。また、5歳児には適度な休息の大切さを伝え、就学に向けた対応をしている。眠れないこどもや早く目覚めたこどもへの対応は一定時間静かに絵本を見る等、静かに過ごせる配慮をしている。保護者には午睡の様子と、こどもにふさわしい生活リズムを整える大切さを伝え、帰宅後の就寝時間への留意も伝えている。降園時には日中の保育活動等、日々、育まれるこどもの様子を伝え、育児が楽しくなるような支援につなげている。		
3	評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している 評点(〇〇〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	☐ 非該当
	評価項目3の講評		
	発達に寄り添った保育に努め、信頼関係の中で安定して過ごせる保育環境を整えている 園目標「自分が好き・友達が好き・保育園が好き」に沿い、自主性をもってこども自身が見通しを持ち、集中して遊びの選択ができるコーナー等の環境を整えている。5歳児組が主体的に活躍する「いろいろワンダーランド」では創作劇やダンスを披露し、小さい子も楽しく遊べるコーナー等、人と関わる力と思いやりの気持ち、役割分担を育んでいる。戸外遊びは友達を意識して意欲的に身体をたくさん動かして遊ぶ、多彩な活動を取り入れた集団遊びや一人ひとりの発達に寄り添った保育に努め、安心した信頼関係の中で安定して過ごせる保育環境を整えている。 多様な遊びができる公園を散歩や戸外遊びで活用し、五感を刺激する遊びを楽しんでいる 近隣には多様な遊びができる公園があり、散歩や戸外遊びで活用し、季節を感じ、体を動かす活動は保育の中心になっている。季節が移り変わる自然の面白さ(新緑～紅葉)や不思議さ(温かい春風～冷たい北風)を体で感じながら自然物に触れ、五感を刺激する遊びを楽しんでいる。園庭では植木鉢の下からダンゴムシを見つけ、ミカンの木の葉に産み付けたアゲハ蝶の卵や幼虫に気付き、飛び立つまでの観察は「いきものっておもしろい」や命のつながりを体験している。戸外で遊ぶ心地よさや様々な遊びから自然の不思議さを言葉で表現する力を育んでいる。 自分の気持ちを調整する力や仲間意識を育み、楽しさの幅を広げる保育の工夫をしている 友達との関わりを深める集団活動が豊かに展開する中で、自我を育み、自分の意思を伝える言葉や関わり方等、話し合いの機会を設ける等、様々な力を養えるよう取り組んでいる。自我の発達に伴い、所有意識も強くなるが、気持ちを受け止める保育士の仲立ちで、こども同士のつながりを深め、集団としての仲間意識を育む援助をしている。ルールのある遊びを競い合って楽しみ、「もっと〇〇したい」の気持ちを受け止め、情緒の安定や生活、遊びの中で、きまりを守ることの大切さ、自分の気持ちを調整する力を育み、楽しさの幅を広げる保育の工夫をしている。		

4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)												
	<table border="1"> <tr> <th>評価</th> <th colspan="2">標準項目</th> </tr> <tr> <td> ☒ あり ☐ なし </td> <td>1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している</td> <td> ☐ 非該当 </td> </tr> <tr> <td> ☒ あり ☐ なし </td> <td>2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している</td> <td> ☐ 非該当 </td> </tr> <tr> <td> ☒ あり ☐ なし </td> <td>3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている</td> <td> ☐ 非該当 </td> </tr> </table>				評価	標準項目		☒ あり ☐ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	☐ 非該当
	評価	標準項目														
	☒ あり ☐ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	☐ 非該当													
	☒ あり ☐ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	☐ 非該当													
☒ あり ☐ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	☐ 非該当														
評価項目4の講評																
行事は年齢に応じて楽しめる集団活動、協同的な活動を意識し、目標を持ち企画している 行事が特別な日ではなく保育の一環として参加し、楽しむことができる日になるよう子ども達の意欲を大切に、目標、ねらいを持ち企画している。年齢に応じて楽しめる集団活動、協同的な活動を多く取り入れ、行事がこどもの遊びのきっかけになるよう配慮している。伝統的な文化を伝える季節的な行事(七夕、節分、ひなまつり等)、保護者参加の運動会は園庭で幼児クラス対象に年齢毎に開始時間を決め、実施している。保護者は一生懸命頑張る姿や負けて悔しがる姿に感動する等、来年への期待感と共に、こどもの心身の成長を感じる機会となっている。 人と関わる力と思いやりの気持ちを育み、力を合わせた集団活動の達成感を体験している 3～5歳児組から各1名、3名1グループの異年齢グループを構成し、自己紹介後は年齢を意識した思いやりの言葉をかけ、共にゲームを楽しむ「わくわくタイム」では異年齢の交流を深めている。5歳児が主体の「いろいろワンダーランド」は、くじら会議と名付けた、こども会議を開き、様々な意見をまとめて6個の催しを決め、それぞれグループを中心に小道具制作等を行い、乳児や3～4歳児を招待している。一人ひとりのやる気が引き出され、一緒に力を合わせることの難しさを感じながらも一生懸命表現し、「できた・見せた」という気持ちを育んでいる。 行事は保護者と、こども達が共に楽しいひと時を過ごす大切な時間となる配慮をしている 保護者と共に行事には多くの保護者が参加しやすいよう、また、こどもと一緒に楽しいひと時を過ごす大切な時間となるよう配慮をしている。行事を通して保護者と共に、こどもの育ちを共有できるよう、また、「おうちの人に見て欲しい」というこどもの思いや練習に取り組む、こども達の姿を掲示や園だより等で知らせている。保護者が参加する行事については年度初めに年間行事予定表を配付し、保護者参加行事(運動会、各幼児クラスのお楽しみ会等)は、保護者の協力を得ながら、こどもと一緒に楽しみ、意欲的に行事を楽しめる配慮をしている。																
5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)												
	<table border="1"> <tr> <th>評価</th> <th colspan="2">標準項目</th> </tr> <tr> <td> ☒ あり ☐ なし </td> <td>1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている</td> <td> ☐ 非該当 </td> </tr> <tr> <td> ☒ あり ☐ なし </td> <td>2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている</td> <td> ☐ 非該当 </td> </tr> </table>				評価	標準項目		☒ あり ☐ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	☐ 非該当			
	評価	標準項目														
	☒ あり ☐ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	☐ 非該当													
	☒ あり ☐ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	☐ 非該当													
評価項目5の講評																
長い時間、保育園で過ごす、こどもの保育は、こども同士の穏やかな交流を見守っている 長い時間保育園で過ごす、こどもの保育は日中の保育活動内容と疲労度とのバランスに考慮し、安心して落ち着いて過ごしながら、こども同士の交流が和やかに育まれるよう配慮し、見守っている。温かな雰囲気、こどもの希望に合わせて、少人数で楽しめる好きな遊びができる雰囲気づくりに心がけ、こども自身が気持ちを切り換え、保護者を待てる環境を整えている。職員と1対1で、日中の保育ではなかなかできないこどもの要求に応じて、声掛けや抱いてあげる等、静かに落ち着いて触れ合う等、安心する関わりをしている。 保育時間が長くなる、こどもの保育は心身の状態を把握し、保育の継続に努めている 保育時間の長いこどもの保育は、こどもの生活リズムや心身の状態を把握し、安心して穏やかな毎日を過ごせるよう配慮している。職員の勤務形態が早番・遅番等と時間帯で変わる保育は、こどもの気持ちに寄り添い、安心できる環境を整えている。勤務の引き継ぎ時には日中のこどもの様子を遅早連絡ノート、クラス連絡ノートで確認している。保育が延長保育へと引き継がれ、こどもの過ごし方、こどもの遊ぶ姿等、保育の流れが継続するよう延長番保育日誌に記載している。保護者へは口頭でこどもの姿を伝え、子育てを応援する声かけをしている。																

6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している			評点(〇〇〇〇〇)	
	評価	標準項目			
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている			☐ 非該当
	評価項目6の講評				
	給食は自園調理で新鮮で安全な食材、季節を感じる食材を活かした献立で提供している 毎月の給食は区共通の献立表を活用し、新鮮で安全な食材、季節を感じる食材、食材の味を活かす自園調理で提供している。給食は、こどもの生活の一部と捉え、視覚や味覚を育む味付けで、おやつも毎日手作りで提供している。行事食は日本の伝統行事を中心に特別メニューの提供や行事を楽しむBGMをかけて、食を楽しむ雰囲気を大切にしている。乳児は食具に合わせた食器を活用、テーブル・椅子はこどもの年齢、体格に合わせ、座る席を決め、正しい姿勢で食事ができる配慮をしている。給食会議は月1回行い、調理の検討、こどもの喫食を把握している。 離乳食は味覚や咀嚼等を育み、アレルギー食対応は区の対応ガイドラインを活用している 離乳食は、こどもの月齢や体調、保護者の要望等に合わせ、味覚や咀嚼が育まれる配慮をしている。こどもの体調に合わせ、摂取量を調整する等、安心して食べられる配慮をしている。食物アレルギー対応は「保育所におけるアレルギー疾患生活管理指導表」の提出と区の保育所におけるアレルギー対応ガイドラインを基に完全除去で提供している。アレルギー確認簿を使用し、誤配膳、誤食防止に努め、さらに、こどもの座る位置等、個食にならない配慮と工夫をし、定期的に保護者とアレルギー食対応献立や状況を話し合い健康な体づくりにつなげている。 年齢別食育計画を作成実施し、保護者へも食の関心を高める取り組みを行なっている 年齢別食育計画に沿い年齢別年間目標のもと0歳児からの食育計画を作成し、年齢ごとの目標に従い、計画的に取り組んでいる。食習慣の定着と食を通して心身の健康を目指し、クラス担任と連携、協同して食材に触れる、匂いを嗅ぐ等、食育活動を乳児クラスから体験している。幼児クラスは年間通して野菜の栽培活動に取り組み、収穫物はライブクッキング(こどもたちの目の前で調理)を行い、給食で味わっている。栄養指導では3つの食品群を学び、食への関心を高めている。保護者会で離乳食や簡単メニューの講習会を開き食に関心が持てる援助をしている。				
7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している			評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目			
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている			☐ 非該当
	評価項目7の講評				
	保育園保健計画に従いクラス担任と協同体制を整え、健康教育に取り組んでいる こどもの健康維持・増進を図る保育園保健計画は園目標、年間保健目標を定め、4期に分けそれぞれ保健目標に従い、保健行事、保健活動、保健指導・支援等を実施している。保健行事や保健目標に従い、クラス担任と協同体制を整え、幼児クラスを中心に2歳児と職員向けの健康教育を計画的に取り組んでいる。身体機能やプライベートゾーン等、こどもの年齢に応じ、健康で安全な生活を作り出す力を養い、基本的な衛生習慣の積み重ねの大切さを指導している。看護師は職員対象に病気の予防と早期発見、嘔吐処理の対応等を実施し、共通認識を図っている。 健康的な園生活が送れるよう毎日の健康観察や嘱託医の健診等を実施し、見守っている 一人ひとりの健康状態は入園時に提出された各種書類や嘱託医の定期健康診断、歯科医による歯科検診、看護師の保健業務としての身体計測、視力検査、保健所の歯科衛生士による歯科指導の介助、毎日の健康観察、保護者からの体調の連絡等で把握し、保健記録に記載している。嘱託医の定期健診、歯科検診の結果や身体計測値は個別に記載し、健康的な園生活に繋げている。医療的ケアが必要な場合は主治医の指示を受け、発達に関することは保護者の承諾を得て、嘱託医や関係機関と連携している。なお、園での与薬は原則として預からない対応をしている。 入所時にSIDS予防の説明をし、保護者会等で感染症の説明と共に予防を促している 新入児オリエンテーションで乳幼児突然死症候群(SIDS)の予防のための説明をしている。園では室内環境(照明、温度、湿度)に留意し、時間を決めて睡眠状態の観察や体位を確認し、記録している。新入児オリエンテーションや保護者会等で感染症についての説明や発症時の対応方法をわかりやすく話し、感染予防のための予防接種についても説明している。園内で感染症発症時は病名や予防方法の掲示や電子媒体で配信し、感染予防を促している。園だよりや保健だよりで健康についての情報を共有している。園医をはじめ他機関との連携に努めている。				

8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている 評点(〇〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	☐ 非該当
評価項目8の講評			
保護者が安心して子育てと仕事の両立ができるよう個別に応じた支援に取り組んでいる 保護者との信頼関係の構築、維持に向けて、保護者が安心して子育てと仕事の両立ができるよう延長保育、障害児保育、アレルギー児対応、外国人児童の受け入れ、育児困難家庭への支援等、個々の事情に配慮する支援をしている。保護者はこどもと向き合い、より良い親子関係を築き、園は子育ての自信や意欲が高められるよう支援している。また、個人面談、保護者会等で保護者の意向や要望等を把握して、保護者とのコミュニケーションを大切にしている。保育時間の変更等、保護者の就労や家庭の事情等に配慮し、可能な範囲で快く対応している。 保護者の意向や要望には適切な対応に努め、保護者同士が交流できる機会を設けている 保護者会、保育参観・参加などは保護者同士が顔を合わせて交流できる機会を設けている。集団生活の中で成長するこどもを見守り、その姿を保護者に伝える園だよりの各クラスのエピソード欄では、こどもがふと「つぶやく」言葉を載せている。また、こどもが様々な活動を通して育つ姿や心身の発達の姿、小さなエピソードを保護者に知らせる事で、親子の会話が豊かに深まり、喜びや子育ての自信、意欲を高める育児支援に繋げている。保護者の意向や要望等を把握する「通信ボックス」を園内に設置し、保護者の意向や要望を把握し、適切な対応に努めている。 こどもの発達や育児の相談は随時対応し、育児支援や信頼関係の構築につなげている 日々の送迎時の対話や連絡帳等を通してこどもの発達や育児についての相談は保護者の状況を踏まえ、保護者に寄り添い一緒に考え、共に育ちを共有する対応をしている。家庭と園との共通認識を深める個人面談(年/1回、必要に応じて随時対応)や保育参観、参加(期間を指定)を通して、共通認識や保育現場の見学を育児支援や信頼関係の構築につなげる機会と捉え実施している。育児支援や保護者との関係づくりについては担当クラスにかかわらず職員から積極的に声掛けをかける等、保護者との信頼関係構築に努めている。			
9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当
評価項目9の講評			
近隣園の5歳児との交流を楽しみ、消防訓練、起震車体験等、多様な体験をしている コロナ感染対策も緩和され、近隣園の5歳児と計画的に交流を始める等、こどもの生活の幅を広げる様々な取り組みを行っている。大きな公園のとなりにある地域に開かれた当保育園は児童館、高齢者が集う施設(老人いこいの家)との三館合同施設で、共に協力する環境が整えられており、消防訓練、起震車体験(地域の保育ママも体験)等、多様な体験をしてこどもの感性を豊かにしている。5歳児はおおよそ月に1回、図書館に出かけ、絵本を見たり、社会的マナーも学ぶ機会にしている。 警察官による交通安全指導、実習生との交流等、職員以外の人との交流を体験をしている 地域に愛される保育園を目指し、園舎環境を活用して子育て支援事業「ぽかぽか広場」の計画的な実施や妊娠中の方、3歳未満児の子育て家庭へ配布される育児応援券の利用、マイ保育園(未就園児の在宅子育て支援)登録を進めている。区の交通課安全担当者と警察官が来園して交通安全教室に幼児クラスが参加して交通安全のDVD鑑賞、交通安全指導をうけ、実施歩行訓練(5歳児)を体験している。中学生や保育士の体験学習や保育、看護の実習生受け入れ世代間交流、次世代育成に取り組み、こども達は職員以外の人とふれあい、多彩な感性を育んでいる。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル①	地域子育て家庭支援を充実させ近隣保育施設を招いた公開保育で地域の交流を深めている	
内容①	園の機能や専門性を発揮して「ぽかぽか広場」を月1回行い、近隣の子育て家庭の親子を対象に身体計測や遊びの提供、離乳食相談や体のケア等を企画して園見学者や園入り口のフェンスで案内し参加者を募っている。毎日園庭開放も行い親子と一緒に安心して遊べる場を提供している。また園は地域の保育施設の核として、地域の近隣保育園に案内して公開保育を実施し、前回は1週間の実施で延べ37名の参加があり学びの場としている。さらに地域の保育施設の職員を対象として地域会議や看護師が近隣園に昼休みに訪問して心肺蘇生法の講習会も行っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-4	日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している
タイトル②	行事は特別な日ではなく、遊びのきっかけとなる変化と潤いのある活動を実施している	
内容②	行事が特別な日ではなく保育の一環として参加し、楽しむことができる日になるよう、こども達の意欲を大切に、目標、ねらいを持ち企画している。年齢に応じて楽しめる集団活動、協同的な活動を多く取り入れ、行事がこどもの遊びのきっかけになるよう配慮をしている。クラス全員が意見を出し合い企画開催する「いろいろワンダーランド」、異年齢3人が1グループで慕う気持ち、思いやりの気持ちを育む異年齢の「わくわくタイム」の取り組みは日常の保育を深め、連携し、関係性を築きながら生活の幅を広げ、安全で楽しい保育園生活につなげている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル③	地産地消を取り入れた給食や栽培活動は、こどもの感性を育み、活動の幅を広げている	
内容③	こどもが安心して楽しく食べる給食は、こどもの生活の一部と捉え、視覚や味覚を育む味付けで提供している。食を通して心身の健康を目指す食育活動はクラス担任と連携、協同して幼児クラス毎にプランター栽培に取り組んでいる。野菜の栽培活動は年間通して取り組み、収穫物はライブクッキング（こどもたちの目の前で調理）や、栽培しているキュウリと想像を膨らますカッパとの手紙交換を物語風に創作する等、活動の幅を広げている。昔の特産物を取り入れた「まごめピクルス、大森海苔ナムル、蒲田黒湯温泉ゼリー」等を給食やおやつで提供している。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	園目標に沿い、安心する信頼関係の中で遊びを深め、イメージを膨らまし、想像の世界を広め発達の特徴を的確に捉えた保育に取り組んでいる
	内容	園目標に沿い、自主性をもって、こども自身が見通し、集中して遊び、安心する信頼関係の中で一人ひとりの発達に寄り添い、安定して過ごせる保育環境を整えている。「湯水遊びを楽しむ」は道具を使って水遊びを深め、3歳児クラスは自然環境に興味を示し想像している。4歳児クラスはカッパとの手紙のやり取りのイメージを膨らまし楽しんでいる。5歳児クラスは、いろいろワンダーランドで想像したものを様々な素材を活用して形にする楽しさを学び、主体的に活動している。発達の特徴を的確に捉えた保育実践を行なっている。
2	タイトル	職員会議の中で15分間を使いこどもの人権について保育士が日々直面する事例を用いて話し合い内容はシートに纏め全員で共有している
	内容	年度初めに保育方針を全員で確認し合い、こどもの人権に関しては資料を用いて確認する事や、虐待防止マニュアルや冊子も全員で確認している。昨年から職員会議の場で15分間を使い、こどもの人権について職員間で事例を用いて話し合いを行っている。クラス毎、場面毎に事例をテーマとしてこどもの思いや保育士の思い、行動の背景を考えてどのように対応したらよいかをグループワークとして話し合っている。内容はそれぞれが共通のシートに記入する事で職員全員が理解を深めている。集まったシートは全員に配付している。
3	タイトル	園長は常に職員の話を書く姿勢が職員間に浸透し、何でも話せる相談しやすい雰囲気ができ、園の仕組みも上手く回して良い職場を作っている
	内容	園は常に話し合いで決めていく方式をとり、職員からやってみたいこと、やってみよう保育について話し合う時間を大切にしている。日頃から何でも相談してほしい事は伝えているので、園長が忙しい時でも必ず話を聞く姿勢が職員間に浸透している。内容は副園長とすぐに相談して情報共有している。今回の職員調査でも、雰囲気が良い、何でも話せる、相談しやすい、話を聞いてくれるとの多くの評価がある。グループワークの話し合いや、公開保育での高め合い、面談シートでの目標共有による達成感など園の仕組みも上手く回して良い職場環境を作っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	日頃より保護者の意向は常に把握して対応しており、今後は年間の総合的なアンケートの実施を区立園として話し合われる事に期待したい
	内容	保護者の意見や要望は保護者参加行事後に必ずアンケートを実施して把握する事や、日々の送迎時にも直接園長と話したい希望を受け止め、把握した内容は園内で共有してすぐに対応できるようにしている。今回第三者評価の利用者調査でも多くの貴重な意見が集まっていることから、今後は年度の終わりに園の保育サービスや取り組みに関する総合的なアンケートの実施も検討し保護者の意向を把握するよう進められたい。行事アンケートは電子アプリを使用する際に配信の制限があることから、他園も含めた共通の検討事項として話し合う事に期待したい。
2	タイトル	今年度は5つのプロジェクトチームで園の課題の抽出や解決に向けた体制としたことから単年度事業計画には明記して共有する事に期待したい
	内容	園の単年度事業計画は中長期計画の今年度の実施項目と繋げて、職員全員と重点とする取り組みを共有し、目標の達成に向けている。今年度は中期計画においても「プロジェクトチーム(PT)活動の充実」としていることから、園の課題の抽出と解決に向けて体制化したPTの活動はとても重要なテーマとして位置付けられている。今年度の事業計画には5つのPTの役割や期待する事(今年度の活動目標)を明示して職員全員の意識を高める事や、加えて事業報告の前年度の反省や課題への対応を具体的に活動できる内容として拡充し、周知する事に期待したい。
3	タイトル	保育の楽しさ、やりがいを感じながら保護者環境を理解した、より良い対応を目指すために職員間で様々な関連情報の共有化を進められたい
	内容	保護者の多様な働き方や考え方を理解して向き合うためには、保育士の意識改革も必要ではなかと考えている。社会情勢や保護者環境を理解した、より良い対応を目指すためには関係する根拠法令やそれぞれを学ぶ必要性、職員間での共通認識が求められている。客観的に自分の保育の振り返りや意識改革を図る園内公開保育を積極的に実施し、園外に向けても発信している。保育の楽しさ、やりがいを感じながら保育の仕事に取り組み、保護者環境を理解した、より良い対応を目指すために、様々な関連情報は職員間で共有化を図り、保護者対応の向上を期待したい。